

「月惑星に社会を作るための勉強会」趣意書

2025 年 4 月



1. 名称: 月惑星に社会を作るための勉強会 (略称: ムーンビレッジ勉強会)
2. 協賛: 宇宙惑星居住科学連合(JASMA) 日本ロケット協会(JRS)
3. 活動の経過

2019 年度に「探査の将来を考える勉強会」として、毎回話題提供者を招いて、課題の抽出やアプローチの方法などについて、自由に議論をするサロンのようなプラットフォームとして活動してきました。

この間、勉強会のメンバが中心となって、Moon Village Association (MVA)の活動と連携する形で、2019 年 12 月と 2023 年 12 月には MVA が主催する第 3 回（東京開催）と第 7 回（倉敷・鳥取開催）のムーンビレッジ国際ワークショップ・シンポジウムを主催し、内外の多くの皆さんの参加を得て国・アカデミアや民間の活動の紹介と意見交換の場を作ってきました。

活動の進捗に合わせて、勉強会の名称を「月惑星に社会を作るための勉強会(略称: ムーンビレッジ勉強会)」として、宇宙における社会の構築のような人類の営み

が、どのように現実のものとしていくのか一緒に考え、議論するプラットフォームとして活動し現在に至っています。

4. 勉強会開催の趣旨と目的

人類の宇宙活動の次の到達点として、宇宙に作る持続的な人類社会というものを想定し、その描像をすることを考えたいと思います。最近の月を巡る探査から有人活動への活動が本格化し活発化する時、これらの活動の次の目標をイメージするという意味でも有意義なことでしょう。

次に向けて考えておくべきことは、社会の構築のような大規模な持続的有人活動を行うための工学技術的な課題のみならず、自立性の高い社会を構成し運営するための経済性や事業性、宇宙空間という特殊な環境での生き物としての人間の生活や世代を継ぐ上での課題、法的小および文化的な側面に至るまで、既に確立した宇宙開発の成果やその手法を超えた、人類の新しい活動の土俵を作るための考え方や方法論について議論しておくことが求められます。

「月惑星に社会を作るための勉強会」は、このような持続的に宇宙に人が存在し社会を構築するために考えておくべきことを幅広く捉え、まずは月を手始めとして、地球の外につくる人類社会というシステムを構築するときの方法論・政治、経済、倫理・哲学など持続可能な社会の仕組みや法規など、生き物としての人間の課題や、世代を重ねる上での課題、ヒューマニティ、人文科学的に考えるべき事、経済的自立や商業利用・事業成立性・有人滞在、資源エネルギー、輸送・サプライチェーンなど新しいアーキテクチャーなどなど幅広い議論の切り口を意識して活動したいと思います。

国の事業や学術研究に偏らず、民間やベンチャーなど事業の意識の高い人達をはじめこのような議論に興味のある方の参加を期待し、自由にかつ積極的に参加できる勉強会の環境を作り、いろいろな活動を紹介し、意見交換が出来る場を作ることを目指したいと思います。

5. 月社会のリファレンスモデルスタディ

これまでの勉強会の活動として、月に作る社会のイメージを具体的に考えるために「月社会のリファレンスモデル」のスタディを勉強会のインハウスメンバーで行いました。社会を構成する人数や規模感について、仮置き的前提を置いて、技術論のみな